

研修報告書 No.5

所 属： 昭和大学病院

氏 名： 久保 祐太朗

研修先： 医療法人聖真会 渭南病院、
特定医療法人長生会 大井田病院
宿毛市立 沖の島へき地診療所

2019年の4月から5月にかけて、土佐清水市にある渭南病院で3週間、高知県宿毛市にある大井田病院で2週間、沖の島へき地診療所で2日間の地域医療研修をさせていただきました。

私が初期研修を行っている病院は、東京都の急性期の大学病院であり、研修医として入院中の患者を担当するものの、退院後に定期的に外来診察で会うことはなく、患者の入院中の姿しか知らないことにどこか物足りなさを感じていたところでした。

今回お世話になった、人口1万2千人程度の土佐清水市にある渭南病院は、市唯一の中核病院として急性期の受け入れから、慢性期の患者さんが自宅退院を目指しリハビリを行う地域包括ケア病棟まで幅広い役割を担う病院でした。急性期だけでなく、患者さんが入院してから自宅退院までみられるため、東京都の急性期病院では学ぶことのできない新しい考え方を学ぶことができました。より効果的なリハビリを積極的に行うためにも、慢性期患者だけでなく終末期患者さんも高い確率で自宅退院させるためにも、住宅評価が重要であることなど、たくさんのごことを教えていただきました。

特に住宅評価は、看護師、ケアマネージャーの方々と共に、実際に自宅退院をされる患者さんのご自宅に行かせていただき大変印象に残っています。自宅の状態を把握し、必要な道具、サービスは何か議論しながら、様々な職種が連携して患者さんをサポートしており、チーム医療とはこういうものだということを学ぶことができました。

地域研修期間中には、院内だけではなく、訪問診療、訪問看護、保健所、保育園、特別養護老人施設、デイケア、地域包括支援センターなど様々な施設を訪問する機会をいただきました。実際に様々な施設を訪問させていただき、我々医療者が目の届かない領域は思っている以上に広くあり、いろいろな職種の方が懸命に努力されていることを知りました。訪問診療や訪問看護で家族の介護を労いながら、患者と家族にとって最善の方法を策案しようとする医師や看護師の姿は印象的でした。

一方、人口2万人程度の宿毛市にある大井田病院は、車で15分程の距離に急性期を担う幡多けんみん病院があるため、慢性期患者の受け皿の役割を担い、地域に根付いた医療が提供されていることを知りました。そして、外来業務、訪問診療、訪問看護、高齢者施設への往診、乳児健診、地域包括ケアセンターでの研修などで、大学病院での研修では体験しえ

ない貴重な経験をさせていただきました。

そして人口 100 人程度の離島である沖の島診療所へも行く機会をいただきました。医療を求めて何百の階段を昇降し診療所に来る島民たちに対し、限られた資源のなかで最善の医療を行うことの難しさを知りました。また、地域が求めているのは我々が追い求めがちな専門性の高さというよりは、患者の健康生活を総合的に診察できる力であるということも感じました。この幡多地域での研修は、残りの研修生活および今後の医師人生で自らが提供する医療のあり方、目指す医師像に大きく影響を及ぼすだろうと思いました。いつの日か何らかの形で地域医療に貢献できればとも思いました。

最後に、5 週間と短期間ではありましたが、東京では経験することのできない大変貴重な経験をさせていただき、渭南病院、大井田病院の皆様には感謝申し上げます。以上をもって報告とさせていただきます。